



# 白聖はくあ 第2号 令和5年4月20日発行



## 【進路・探究と大学入試の関連性】

探究活動の中心となる「総合的な探究の時間」では、自己の在り方を深め、将来の進路実現や社会の一員としての生き方の検討につなげていくことが期待されています。【本校においては、2学年理型は「SS 探究」で代替、3学年理型は「SS 創造」で代替しています。】

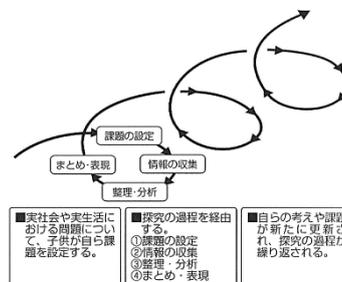
高校時代は、自分の生き方・生きる意味・人間や社会の在るべき姿などについて悩み、考えを深める時期になります。その一方で、進学先や就職先などを決める必要もあります。「総合的な探究の時間」では理想と現実の両面について思う存分、納得がいくまで探究し、自己の中で統合していくことが求められています。

また、「在り方」に関しては、進路実現のような個人的な生き方を追求するだけではなく、社会の一員としてどう生きていくかという側面からも具体化していくことが必要です。現代的な様々な課題・地域や学校に応じた課題・自身の興味関心に基づく課題・職業や自己の進路に関する課題に取り組む際にも、社会の一員としてどう解決していくかを意識して取り組んでいきましょう。

総合的な探究の時間で育成する資質・能力である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう人間性等」は、将来みなさんが企業や地域で多様な人々と仕事をしていくために必要な社会人基礎力（「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」）と連携しています。さらに、大学入試は未来の社会を支える人材育成につながっています。高校までの「学習」で育まれるのは従来の学力だけではありません。未来の社会を創造する人材には多様な能力が求められ、その能力開発の途中段階に大学での「学問」や大学入試があります。入試時点までの多様な学習成果を測定することが、大学入試の目的の一つにもなっています。大学入試の動向に目を向けると、近年は総合型選抜や学校推薦型選抜の中に「探究評価型入試」を導入する大学もあります。志望理由書や推薦書に、高校での探究活動の経験や成果を記載させ、探究活動に関する面接やプレゼンテーショ

ン、質疑応答などを課すパターンなどがあります。また、選抜の中で、探究のプロセスである【課題設定】⇒【情報収集】⇒【整理・分析】⇒【まとめ・表現】のサイクルに関する場面を設けることで探究・研究する力や意欲、アドミッション・ポリシーとの適合性などを評価することもあります。

総合型選抜では、探究の観点で受験生を評価し、円滑に高大接続を図ろうとする大学が増えています。大学は研究をする機関であり、高校時代の探究が大学での研究に繋がると考えられているからです。



## 《総合的な探究の時間の目標とは》

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指しています。

## 《探究過程の高度化と自律性》

質の高い探究をするためには、高度化し自律的に行われることが必要とされています。

「高度化」には以下の4つの特性があります。

- ①探究において目的と解決の方法に矛盾がない**整合性**
- ②探究において適切に資質・能力を活用している**効果性**
- ③焦点化し深く掘り下げて探究している**鋭角性**
- ④幅広い可能性を視野に入れながら探究している**広角性**

「自律性」は以下の3つが考えられます。

- ①自分にとって関わりが深い課題になる**自己課題**
- ②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる**運用**
- ③得た知見を生かして社会に参画しようとする**社会参画**

## 《他教科の探究との違いとは》

総合的な探究の時間で行われる探究は、基本的に以下の3つの点において他教科・科目において行われる探究と異なっています。

1つ目は、学習の対象や領域が特定の教科・科目等に留まらず、**横断的・総合的な点**であるということです。実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する事象を対象としているからです。

2つ目は、複数の教科・科目等における見方・考え方を**総合的・統合的に働かせて探究する**という点です。他の探究が、その教科・科目における理解をより深めることを目的に行われていることに対し、総合的な探究の時間では、実社会や実生活における複雑な文脈の中に存在する問題を**俯瞰し、様々な角度から捉え、考えていく**ことが必要になります。

3つ目は、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、**最適解や納得解を見いだすことを重視**しているという点です。

## 《各教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせよう》

実社会・実生活の中の課題の探究において、**言葉による見方・考え方を働かせること**（対象と言葉・言葉と言葉との関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること）や、**数学的な見方・考え方を働かせること**（事象を、数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的・統合的・発展的に考えること）や、**理科の見方・考え方を働かせること**（自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること）など、各教科・科目等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を、課題に応じて適宜組み合わせながら、繰り返し活用されることが求められます。

探究の課題は、**各教科・科目等で学んだ見方・考え方を総合的・統合的に活用しながら**様々な角度から捉え、考えることができるものであることが求められます。

課題の具体的な例は、以下のような課題が考えられます。

- ①国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ②地域や学校の特色に応じた課題
- ③生徒の興味・関心に基づく課題
- ④職業や自己の進路に関する課題

よりよい課題を発見し解決していくには一定の資質・能力が必要です。課題についての一定の知識や技能がなければ、課題の解決には向かいません。「**知識無くして思考無し**」です。**思考の土台となる知識・技能**を学校生活の中で身に付けていきましょう。その機会となるのが日々の授業になります。

## 《自己の在り方・生き方について考える》

自己の在り方・生き方とは、次の3つの角度から考えることができます。

1つ目は、人や社会・自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、**社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなど**を考えることです。

2つ目は、**自分にとって学ぶことの意味や価値**を考えることです。学習活動を通して、自分の考えや意見を深めること、そして、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することが大切になります。

3つ目は上記の2点を生かしながら、学びを現在及び将来につなげて考えることです。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、人間としての在り方を基底に、**自分の人生や将来、職業について見通し、どのように在るべきかを定めていく**ことです。

## 《先行事例・大学研究を大切にしよう》

課題を設定したら、その課題に対して、世の中ではどのような人達が研究しているのかを調べてみましょう。**大学や大学院の教授・研究室・論文**など、インターネットを利用して調べてみましょう。論文を調べる際には、Google Scholar や CiNii (検索する際にスタート画面の「すべて」を「論文」に切り替えると良い)が便利です。

探究活動は、自己の在り方・生き方であるキャリア形成、その過程である進路選択にも繋がってきます。大学の志望理由にも繋がってくる場合があります。ぜひ自ら先行事例・研究を調べてみてください。